

1 “愛の泉” とは何ですか？

“愛の泉”は「御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています」（エフェソ3:15）にちなんで日本のカトリック・カリスマ宣教とりなし者の会に対して名づけられました。

（1992年6月）

“愛の泉”は“屠り場に引かれる子羊”（イザヤ53：7）です。それは、“わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る”（ヨハネ4：13）泉です。それは、“主が彼らを導いて乾いた地を行かせるときも、彼らは渴くことがない。主は彼らのために岩から水を流れ出させる。岩は裂け、水がほとぼしる”泉です。

（イザヤ48：21）

永遠のいのちの水が“愛の泉”から流れ出て、“愛の泉”から水を飲むものは誰でも決して渴くことがない。“（ヨハネ4：13）

“愛の泉”の源泉は、三位一体における愛の神秘の中にあります。（ヨハネ17：21,14：15-21、ルカ10：21-22）“わたしは激しく心を動かされ、憐れみに胸を焼かれる”（ホセア11：8）とあるように、“愛の泉”のとりなし者は、わたしたちをより近くに引き寄せざるを得ない御父の聖なるみ旨に深く結ばれ、主であるキリストと、その復活にも深く結ばれているのです。

“愛の泉”のとりなし者は、“愛の泉”から出る水は、神がわたしたちに与えてくださる聖霊の助けによって流れ出るものであるとわかるのです。（1ヨハネ3：24）この霊は世の霊ではありません。

ません。（1コリント2：21）人に媚を振る霊ではなく、（ガラチア1：10）自己推薦をする者たちでもなく、（2コリント10：12）打ち砕かれて、へりくだる霊の人（イザヤ57：15）なのです。

“霊”は一切のことを、神の深みさえも究めます。（1コリント2：10）それは、“金にまさり、多くの純金にまさって望ましく、蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い”。（詩篇19：11）この霊はわたしたちに一致のよろこびを与えるのです。

わたしのこころが聖霊によって満たされたとき、ダビデのように踊った。アレルヤ（Hymnal p49）

2 とりなし者としての“愛の泉”

神の民の歴史や聖書において、個人としてか、或いは、グループとしてのとりなしの祈りは、主イエスに仕え、従おうとしている者の霊的な生活になくしてはならない基礎になってきました。主イエス・キリストご自身、その生涯の中で祈り、御父と聖霊に仕えてきました。イエス・キリストはこの世で人びとに仕える前に、聖霊に導かれてご自身とりなしの祈りをなされたのです。イエスの祈りの最高のかたちは、虐殺された子羊です。

イザヤ53で、神であり、大祭司であり、罪のための捧げものである主イエスは、ご自身を最高のとりなし者にするのです。これこそが、イエスの生涯と使命の最高の、完全な顕示です。イエスは、神のみ旨に従って御父の栄光と人びとの救いのためにご自身をお捧げになりました。“死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたち

のために執り成してくださるのです。”（ローマ8：34）“それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことがおできになります。（ヘブライ7：25）（1コリント7：25）すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。（1コリント15：28）とりなし者としてのイエスの生涯において、イエスのこのような深い表現は、イエスの使命、すなわち、天と地において僕としての身分、謙って自分を空しくすることがイエスの使命の核心であることを現しているのです。“人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。”（マルコ10：45）

3 “愛の泉”の靈性

“愛の泉”の靈性について以前述べましたように、それは、本来的に非常に三位一体的です。“愛の泉”のとりなし者は、個人的な祈りにおいて、ご聖体において、また、全生涯において、父、子、聖霊との深い親しい関係の中に入っていくように励まされ、そのとりなしの祈りにおいて自身の役割を果たします。従って、その奉仕は聖霊の愛と力から由来するのです。聖霊から出てくる“愛の泉”の靈性は、次のように要約されます。

聖霊——“靈”は一切のことを、神の深みさえも究めます。（1コリント2：10—16）

聖霊——“父は別の弁護者（とりなし者）を遣わして、永遠にあ

なたがたと一緒にいるようにしてくださる。”（ヨハネ
14 : 16)

聖霊——神の思いに従ってどう祈るべきかをご存知の方（ローマ
5 : 24-26)

聖霊——その方は、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせ、
（ヨハネ16 : 13-16）とりなし者としての特別な使命に
導くのです。（ローマ8 : 34）

“愛の泉”のとりなしは、このように源が聖霊の核心から発する
もので、その奉仕も三位一体の神、父と子と聖霊の土台に深くつ
ながっているのです。それ故、その奉仕は安全で効果的なのです。
“あなたがたは多くの実を結び”、（ヨハネ15 : 7）その実は無
駄になることはない。

4 “愛の泉”の実践

わたしたちは、司教との完全な一致において行動します。

- a) 祈りに満ちた、実際的な聖書の知識と基礎的な教会の教
え、わたしたちのカトリック信仰の実践。
- b) けがれなき聖マリアのみこころへの特別な信心と聖なる
天使、特に聖ラファエル（とりなしの天使）と聖ガブリエルと
聖ミカエルに対する信心をもって、キリストにおいて、キリス
トの全神秘体（戦う教会、苦しむ教会、栄光の教会）とわたし
たちとの関係の理解、

- c) 教皇、地域の枢機卿、司教に特別な愛と従順をもって、教会の中で霊的権威を持って奉仕する人びとに尊敬と従順、
- d) 深い個人的な祈りの生活と司祭の霊的指導者から健全な霊的援助或いは指導
- e) 規則的に秘跡に与る一特に聖体の祭儀、それは、わたしたちが主イエスのとりなしのみ業に参加するための大切な核心。
- f) 賛美と感謝における大きな自由、そして、とりなしの時に積極的にカリスマ的賜物を使うこと

“愛の泉”のとりなし者は神の愛の宣教師とも言われます。聖霊との一致において、“愛の泉”は、聖霊の浄配であり、イエスの母としてイエスとともに最初の宣教師であるけがれなきみこころのマリアに特別に奉獻されるのです。聖霊に一致した、また、聖霊の促しそのままのとりなしをとおして、“愛の泉”とりなし者は他の人々と神の愛を分かち合う特権が与えられているのです。そして、今日においても生活と奉仕の分野で主イエスを産み落とすのです。

5 “愛の泉”の活動

“愛の泉”とりなし者の第一の奉仕は、聖霊におけるとりなしの祈りを通して神の民の“足を洗う”ために祈ることです。（ヨハネ13：3－5）“愛の泉”のとりなし者は“愛の泉”のようないろいろな使徒職においてより責任のある、より献身的な方法で主に仕えることを目指します。

本当のとりなし者は、聖書や神の民の歴史の中に示されているように、神の栄光のために祈ることが最も重要な関心事であったのです。主イエス・キリストはそのことを大祭司の祈りとしてお示しになったのです。“愛の泉”のとりなし者の活動は、神の栄光のためにそれと同じ祈りを目指します。とりなし者は自分たち祈り手の意向が成就するように祈るのではなく、祈りの集いや他のとりなしの活動において、神のみ旨が行われるように祈るのです。とりなし者は、祈りの集いやカリスマ的なミサに与るとき、はっきりとした目的を持って生き生きとして奉仕するのです。より深い、大きな自由、賛美と礼拝が必要でしょう。なぜなら、神の民として神の憐れみを知り、ふさわしくそれを受けるために、とりなし者は霊的な雰囲気が必要だからです。賛美と礼拝はとりなしにとって大きな、力強い方法です。とりなし者は、主イエスの神祕なとりなしに参加しているのだということに気づいているのです。したがって、とりなし者は畏敬と礼拝でもってとりなしの神祕の中に入っていくことができるのです。実際には、とりなし者は、聖霊に誰のために祈るべきか、どのように祈るべきか、どのくらい長く祈るべきかと尋ねるのですが、そのとりなしの祈りの間には、賛美と礼拝のために多くの時間が必要です。とりなし者は、キリストの全教会に満ちている聖霊によって与えられた種々のカトリック・カリスマ的な賜物を使うのです。（1コリント12：3-7）とりなし者の祈りの際立った点について、手短かに言えば、次のように言うことが出来るでしょう。“聖霊に従いなさい”聖霊は主イエスご自身によってあなたがたに与えられたのです。（ヨハネ5：9-20、ヨハネ14：14-16）